

第2回地域包括ケアシステム推進プラン検討委員会開催結果

- 日 時 平成25年7月30日(火) 13:30~15:30
- 会 場 京都府医師会館 601会議室
- 出席者 別添のとおり
- 主な意見

認知症総合対策

(医療)

- 介護療養病床では、介護職員が非常に少ないことにより、現場が疲弊している。透析や気管切開している方が認知症になっている中、現場としてはどうすればよいのか、行政がどう関わっていくか、ガイドラインのようなものを示してもらいたい。

(介護)

- 地域包括支援センターに力の差があるので、スーパービジョンできる基幹型センターを作ってはどうか。また、ケアマネジャーの格差が大きいので、認知症に特化したケアマネジャー向けの研修が必要ではないか。現場では、認知症の個別対応が求められるので、介護職員への認知症研修を位置づけてはどうか。
- 個別チームで対応できないケースについては、行政が動く仕組みや発見が遅れた時に助ける仕組みが必要。
- 介護サービス提供が、もう少し専門職としての知識を高める必要がある。事業者側も一緒に考えなければ良くなる。

(若年性認知症)

- 若年性認知症や対応が確立されていない認知症への個別対応について、個々の対応をどうするのか考えていただきたい。また、経済的な課題については、主に自治体が考えていかなければならないのではないか。
- 若年性認知症の方の就労支援に関する取組を、アクションプランに位置づけられないか。
- 介護者が介護しながら働ける地域をつくっていかないと生活していけない。

(家族支援)

- 在宅でがんばっている方が、困難となったときの支援があれば良いと思う。
- 権利擁護の視点を入れてほしい。

(人材・ネットワーク)

- 地域包括支援センターの役割をPRしていく必要がある。
精神関連の相談が多いので、センター職員への研修、認知症研修など、研修の充実が必要。
また、ネットワークがないので、まず、福祉関係のネットワークづくりをしていこうとしている。

(認知症に対する正しい理解の促進)

- しっかり噛むことが認知症の予防につながることを記載してほしい。
- まちかど相談薬局をもう少し利用してはどうか。
- 総合相談に対応できるような資源がどこにあるのかを府民に周知していく必要があるのではないか。

看取り

(エンド・オブ・ライフケア)

- 在宅で、あまり苦痛を与えず最後の時を迎えてもらうためには、床ずれの痛みが無いようなケア、訪問看護師のケアが重要。家族を支える面でも訪問看護師の充実が重要。
- 在宅死がうまくいくかどうかは、訪問診療してもらえるかかりつけ医がいるかどうかだと思う。
- スピリチュアルケア、緩和ケア、家族支援ができ、不安・揺らぎが軽減できれば、在宅での死は可能だろう。看護師を中心として、関わっている者すべての不安の軽減が必要。
- スピリチュアルケアやグリーフケアなどにつなぐ仕組みを提案して欲しい。
- スピリチュアルケア、グリーフケアは、看取りに関連する人達すべての人に必要。
- 訪問診療、訪問看護、訪問介護が充実してくればある程度家で看取れる人が増えるのではないか。

(家族支援)

- 仕事と介護が両立できる家族への支援策をお願いしたい。

(府民啓発)

- 子供の頃から生きることの大切さと死への理解をさせる教育をし、社会的なコンセンサスにしていかなければならないと思う。

(意思決定支援)

- 遺族からの訴訟もあり、治療の中断は難しい。諸外国（フランスやオランダ）では、治療を中断することにお咎めなしという流れがあるが、法の整理が必要。
- 何もしないことが尊厳死と思って、本人は治療を受けたくても家族が、サービスを拒否するような誤ったケースがあるので、説明が必要。
- プロセスを踏まえ、家族の意思統一ができれば、（在宅看取りは）出来るだろう。

(その他)

- 高齢者の増加に伴い、孤独死が増えてくるので、地域をあげてどう見守るのか、理想の形がわかればありがたい。
- 専門家だけでは限界があり、地域力の向上をしないと、多様な課題に対応できない。

地域包括ケアの基本施策

- ライフライン、生協、郵便などがちょっとした気づきを行政に伝え、重層的に一人の高齢者を様々な資源がサポートする体制を各市町村別に作ろうとしている。

地域包括ケアシステム推進プラン検討委員会(第2回) 出席者名簿【7/30】

区分	氏名	所属等	出欠	
学識経験者等	岡本 民夫	同志社大学 名誉教授	○	
	山田 尋志	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ 代表	-	
	宮本 隆司	社会福祉法人京都府社会福祉協議会 常務理事	○	
各分野の現場実務者	拠点病院	久野 成人	一般社団法人京都私立病院協会 副会長	-
		清水 紘	京都療養病床協会 会長	○
	在宅医療	北川 靖	一般社団法人京都府医師会 副会長	○
		松本 尚子	公益社団法人京都府看護協会 専務理事	○
		佐藤 雅之	一般社団法人京都府歯科医師会 常務理事	○
		宇野 進	一般社団法人京都府薬剤師会 副会長	○
	介護サービス	荻野 修一	一般社団法人京都府老人福祉施設協議会 会長	○
		吉良 厚子	社団法人京都府介護支援専門員会 事務局長	○
	見守り インフォーマルサービス	三井 健史	特定非営利活動法人丹後福祉応援団 理事長	○
	サービス利用者	荒牧 敦子	公益社団法人認知症の人と家族の会 京都府支部代表	○
山下 宣和		社会福祉法人綾部市社会福祉協議会 事務局次長	-	
市町村	谷利 康樹	京都市 保健福祉局長寿社会部長寿福祉課長	-	
	山口 孝幸	宮津市 健康福祉室長	○	
	花木 秀章	井手町 高齢福祉課長	○	